

# 米軍府中基地の跡地 全面返還に合意!



～永年、手つかずだった留保地の利用に向けて大きく前進!～

## ▶ 在日米軍の「府中通信施設」の全面返還が決定!

今年8月5日、日米合同委員会において、在日米軍「府中通信施設」の全面返還が合意され、9月30日に正式に日本側へ引き渡されることとなりました。

これにより、留保地も含め「府中の森」を一体的に利活用する道が開かれたこととなります。通信施設を除く米空軍府中基地の大半が返還された昭和50年(1975年)以来、長年にわたって粘り強く要望し続けてきた府中市民の皆さまの思いが、ついに、日本政府のみならず在日米軍やアメリカ政府を動かしたのです。



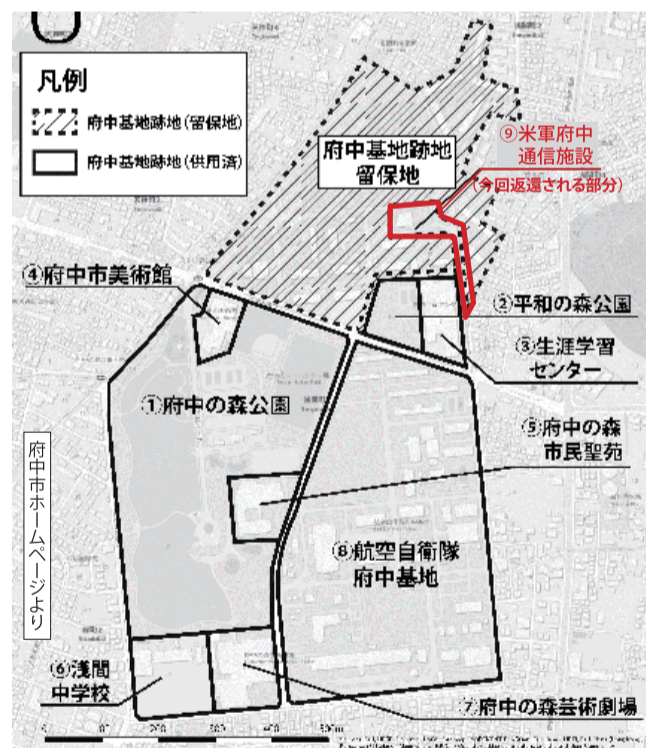
6月24日、長島昭久と共に自民党府中総支部の鈴木錦治都議会議員(自由民主党府中総支部長)と比留間利蔵市議会議員(同幹事長)と共に

## ▶ 長島昭久は、政府に最後の努力を働きかけました!

日米合同委員会合意に先立つ6月24日、私・長島昭久は、鈴木錦治都議会議員(自由民主党府中総支部長)と比留間利蔵市議会議員(同幹事長)と共に、防衛省に中山泰秀副大臣を訪ね、改めて米軍通信施設の即時返還を要望しました。



7月16日、長島昭久と共に府中市議会の市政会の皆さまと、大西宏幸防衛大臣政務官に再度要望をおこなう。



さらに、翌7月16日には、府中市議会市政会の議員全員と共に、再度防衛省を訪問し、大西宏幸防衛大臣政務官に対し、同施設即時返還の要望書を提出しました。

その後、防衛省と在日米軍との間でぎりぎりの交渉が行われ、**日本全国132か所ある米軍基地・施設の中から**

**唯一**、府中の米軍通信施設が返還されることとなったものです。ちなみに、この通信施設は、首都東京に残された7つの米軍施設のうちの1つです。(他は、横田基地、赤坂のプレスセンター、広尾のホテル、多摩のゴルフ場など)です。



(左) 鉄塔と巨大なパラボラアンテナが未だに残されている。  
(右) 過去には敷地内の木が隣接道路に倒れることもあり、安全管理も求められる。

## ▶ 今後の返還、そして利活用について

これまで、通信施設の存在によって「府中の森」を一体として利活用することができず、昭和50年に返還されたエリアは3つに区分され、①「国の利用」として航空自衛隊府中基地、②「地元自治体の利用」として府中の森公園、生涯学習センター、府中の森市民聖苑などが開設されましたが、今なお③**約15.5ha(東京ドーム約3.5個分)**が「留保地」として放置されざるを得ませんでした。

今回の「全面返還」の実現によって、**広大な留保地を含む「府中の森」の一体的利活用が一気に進む**こととなります。今後は、3-5年をめぐりに行われる通信施設の解体撤去工事と並行して、府中市としての利用計画を策定する「前向き」なプロセスに入ることとなります。

私・長島昭久は、府中市の計画策定から実際の利活用まで、政府与党の一員として全力でサポートさせていただきます。その一環として、まず**返還される区域の安全管理を徹底することを政府に要請**します。かつてあったように倒木による事故などが起こらないよう、十分配慮してもらいます。

府中市のど真ん中に位置する**自然豊かな「府中の森」**を、これからどのように利活用していくのか、**広く市民の皆さんの声を聴きながら、様々なアイデアを出し合っていきたい**ものです。